

発行 2020年2月13日

発行者 日本笑顔プロジェクト本部

代表 林映寿

〒381-0211 長野県上高井郡小布施町

雁田 676 浄光寺内 電話:026-247-3924

制作 燕遊舎

日本笑顔プロジェクト台風19号復興支援活動 Report

## 重機オペレーター 100人育成プロジェクト



2019年10月12日の台風19号発生以来、被災エリアでの復興支援を継続している日本笑顔プロジェクト(笑顔P)。年が明けて2020年、力を注いでいる活動の一つが「重機オペレーター100人育成プロジェクト」です。甚大な被害を受けた千曲川沿岸は、リンゴや桃、梨、栗などの果樹栽培が盛んなエリア。ここで果樹を救うための排土作業に取り組むなかで課題となったのが、重機不足、燃料費不足、そして重機オペレーター不足でした。そこで笑顔Pでは独自に「小型車両系建設機械運転業務特別教育講習」を主催し、オペレーター育成に着手したのです。

重機オペレーターが足りない！  
ならば自力で！

台風19号の発生後、千曲川沿岸エリアでは果樹を中心に多くの農地が被災。発災から4カ月が過ぎた現在も国からの支援は届かず、現在も各地で大勢のボランティアのみなさんによる復旧・復興活動が続いています。

日本笑顔プロジェクト(笑顔P)では11月より、長野市穂保のリンゴ園で排土作業をスタート。また年末年始にかけても、小布施町内のリンゴ園や栗畑で排土に注力してきました。

それらの取り組みを経て、手作業での排土作業に限界を感じた笑顔Pの林映寿代表。早速パワーショベルやホイールローダーなどの重機を手配しましたが、肝心のオペレーターが足りません。

台風発生から時間が経って、日ごとに一般のボランティアも減っている中、重機オペレーターは慢性的に不足。しかし1日も早く排土を進めなければ、大切な果樹が枯れてしまう危険があります。

思案の末に、林代表は笑顔P自ら重機オペレーター育成に乗り出すことを決めました。

パワーショベルなどの車両系建設機械を扱うためには、技能講習を受講し、「修了証」を取得する必要があります。通常は、一般社団法人全国登録教習機関協会に加盟する技能講習登録教習機関で技能講習を受けるのですが、受講日が限られたり、会場が遠かったりと難しい面も。

そこで笑顔Pでは、本拠地である小布施町の浄光寺へ日本技能教習所有限会社から講師をお招きして、「小型車両系建設機械運転業務特別教育講習(特別講習)」を開催していただくことになりました。

まずは教本講習、  
そして筆記試験！

笑顔P主催の特別講習は2019年12月～2020年2月に合計6回開催。そのうち第4回目を、筆者も取材を兼ねて受講しました。

講習当日、会場となった浄光寺本堂に、続々と集まってきた受講者のみなさん。この



日本技能教習所からお招きした岡本先生による、パワーショベルの模型を使いながらの学科講習。専門用語が満載。覚えられるのでしょうか……？

日、小布施町内からの参加者は2人のみ。近くは小布施近郊、遠くは新潟県や山梨県、東京都、そして大阪府からの参加者も。台風19号被災地でのボランティア活動を重ねてこられている方も多く、「もっと現場で役に立ちたい」との思いはみなさん共通のようでした。

笑顔P・林代表のあいさつと、特別講習をサポートして下さる笑顔P重機隊メンバーの紹介に続き、早速講習が始まりました。

初めは『小型車両系建設機械運転者教本特別教育テキスト』(一般社団法人全国登録教習機関協会発行)を使つてのレクチャー。ブルドーザーやトラクターショベル、パワーショベルなど、一般に「重機」と呼ばれる車両系建設機械の分類や、その構造、各部の名称や機能をはじめ、取り扱いや安全運転についての知識、関係法令などを学んでいきました。



日本技能教習所の中村先生による重機操作の解説タイム。聞き入る受講者のみなさんは真剣そのもの。

なじみの薄い名称やしくみの数々。幼いころ「働く乗り物」に憧れ、繰り返し図鑑を眺めたり、ミニカーで遊んだりしていた男性が少々うらやましくなる内容も。とはいえ、講習の後には全員平等な筆記試験を受けなければなりません。先生の一言一句に食らいつきながら、必死で教本にマーキング。休憩時には赤線を引いた箇所を慌てて復習。一つ覚えると一つ忘れるような気が……。この脳よ、今だけはフル回転を〜！と祈る気持ちです。



学科講習に続いて実施された筆記試験。静まりかえった浄光寺本堂内で、みなさん全力を尽くしました。

そしていよいよ筆記試験。ここを通過しなければ修了証は手に入りません。

配られた試験用紙には、先のレクチャーで聴講し、教本に赤線を引いた内容が並んでおり、まずまずの手応え。ただし時折ひっかけ問題のように、大筋は正しいけれど細部が少しだけ違っているように思える設問も。



笑顔P重機隊メンバーの指南を受けながら、初めてのパワーショベル操作にトライ。慣れるほどに、どんどん楽しくなってきます。もっともっと上手になりました! という方は、排土現場へ!

受験者のみなさんは一様に、制限時間よりもかなり早めに全問解答を終えられたもよう。念のための見直しも済ませ、試験監督さんが場内のようにすを見ながら終了を告げると、用紙を回収。あとは運を天に任せて、気持ちを切り替え、いざ実技講習へ!

### 実技をたっぷり! 即戦力育成へ

筆記試験の結果が心の隅で気になりながらも、屋外での実技講習がスタート。まずは日本技能教室所の中村先生による解説を聴講。続いて実技に移りました。

ご指南をくださるのは、笑顔P重機隊のみなさん。全員、ボランティアによるサポート活動です。もともと重機の扱いに慣れている方を中心に、2019年11月以降、長野市や小布施町の果樹畑で排土ボランティアを重ねてきた猛者揃いです。メンバーは、小布施在住の農家さんや、ボランティア活動で笑顔Pとご縁のあった方、2011年の東日本大震災の折から笑顔Pに参加してこられた方など。なかにはご自身の家屋や畑も水害に遭いながら、ボランティアとして他の農家さんを支援しておられる方々も。

重機隊メンバーのご指導を受けながら、受講者のみなさんはパワーショベルを中心に、ホイールローダーやATVバギーの操作・運転を練習しました。

学科講習で操作レバーのしくみを習い、さらに実地でも「左レバーを前に倒すとアームが上がる」「右レバーを内側に倒すとバケットが土をすくう」など丁寧に教わるのですが、いざ運転席に座ってみると、頭に入れたつもりの知識がなかなか身体に伝達されません。これは1回でも多く、1秒でも長く、操作しながら身体に染み込ませるのが一番の近道のように。

初めこそぎこちなかった重機の操作も、回を重ねるごとにだんだんと要領がわかり、スムーズに。操作が身につくほど楽しくもなっ

てきます。立春を過ぎてから寒さが増した小布施は、この日も雪まじりの強風に見舞われましたが、重機のハンドルを握っている間は不思議に寒さを忘れられました。

さて、笑顔Pの特別講習では、修了証の取得は通過点であり目的ではありません。目指すのは「現場での即戦力育成」。修了証を受け取ったその日から、果樹畑の排土作業に携わっていただくことが理想です。

通常の講習では受講者10人で1台の重機を使用。しかしそれでは一人ひとりの練習時間が非常に限られます。そこで笑顔Pの特別講習では、3~4人で1台を使用できるよう重機を準備しました。重機は笑顔P重機隊メンバーやリース会社さん、長野市の造園業者さん、他のボランティア団体が貸し出してくださったものと、笑顔Pの所持品。



即戦力を育成するため、第4回特別講習より導入されたホイールローダー。

また通常の講習では使用しないホイールローダーやATVバギーを投入したのも、受講者のみなさんに現場での対応力をできるだけ高めていただくためです。

初体験のATVバギーは、深さ60~70cmはありそうな窪地も軽々と乗り越えるパワフルさ。これなら泥の堆積した水害跡地での移動にも対応できそう……と納得。



ぬかるみや凹凸の多い水害被災地で、物資の運搬などに活躍するATVバギー。ホイールローダーとともに第4回特別講習より導入しました。

### 修了生みんなが今日から 日本笑顔プロジェクト重機隊

楽しかった実技講習も無事に終了。さあ、気になる試験結果は……。試験監督の方から「全員合格です!」と告げられると、場内からは歓声と拍手! 一人ひとり受け取った修了証を、感慨深げに見入る受講者のみなさん。全員が笑顔P重機隊のメンバーとなった瞬間でした。

「重機の数確保も簡単ではない状況の中ですが、今後は笑顔P重機隊の出動時に、スケジュールの合う方が大勢ご参加くださることを期待しています」と林代表。また「笑顔Pが構想するライフアミューズメントパークnuovo(ノーボ)のオープン後は、重機隊のみなさんに重機オペレーションの指導者になっていただくと嬉しい」とも話しています。

その後、第5回、第6回の特別講習も順調に開催することができ、笑顔P重機隊は総勢115人の大部隊に。災害ボランティアに携わる県内外のNPOやNGOの方々をはじめ、サラリーマンや主婦、大学教授や大学生、地元消防署の現役レスキュー隊、僧侶など、さまざま



晴れて重機オペレーター資格を取得したみなさん。笑顔がキラキラです!(2019年12月、第1回特別講習にて)

な立場や世代の方々が受講されました。重機オペレーター育成はこれにて一区切りとし、今後は現場での排土に注力していく予定です。

被災された農家の方は、資格取得後に早速ご自身の畑の排土作業に取り掛かっておられます。笑顔Pでも引き続き展開していく果樹畑の排土活動。重機隊の活躍が楽しみです。

なお、排土活動によって生じた土は、養分を多量に含んだ肥沃な土です。そこで笑顔Pではこの土の再利用をめざしています。現在は町内の畜産農家、小布施牧場さんと協力し、牛の放牧地での活用に向けて準備を進めています。



第4回の受講者21人、全員がめでたく修了証を取得しました！おめでとう！



受講者全員に、笑顔Pのオリジナルグッズセットをプレゼント。

### 特別講習を体験して—東京都・あやこさん (30代女性)

東京都内の不動産会社に勤務されるあやこさん。笑顔Pの第5回特別講習に、お休みをとって東京から夜行バスで駆けつけ参加されたあやこさんに、受講の感想や笑顔Pへの思いを伺いました。

#### —笑顔Pや林代表との出会いは？

2019年12月に東京で開催された台風被害のチャリティイベント「小布施を味わう会」です。偶然にも前月の11月に仕事で初めて小布施を訪れ、街並みや雰囲気強く惹かれていたので、「小布施」と聞いて即、参加を決めました。

そこで林さんと出会い、メディアで取り上げられていないような被災地の現状や「有事には自分たちで対応できるように備えておくべき」というお話を聞いて、笑顔Pの自衛意識の高さに感銘を受け、深く共感しました。林さんは、社会に求められていることを楽しみながら広げておられる印象で、お坊さんというより、もはや実業家さんのようですね。

#### —なぜ重機運転資格を取得しようと思ったのですか？

「小布施を味わう会」以降、復旧支援で何か役に立ちたいと思うようになりました。

そんな中、Facebook で知ったこの重機プロジェクトであれば、私のような重機と縁もない非力な女性でも資格を取って力仕事で役に立てる!と思いついて参加することにしました。

#### —学科講習・筆記試験はいかがでしたか？

“THE お寺”である本堂で、学ぶのが重機というギャップがおもしろかったです(笑)。バックホーやトラクターなど、聞き慣れない重機

の名称やしくみは難しかったですが、女性の参加者も多く、わからないところを相談・共有することで仲良くなれました。

試験は簡単と聞いていましたが、あまり自信はなく、合格発表まで落ち着きませんでした。「不合格だったら、何のために小布施来たのっ」と(笑)。

#### —実技講習のご感想は？

講習で習ったことでも、いざ動かすとなると全然思うようにできず、ご指導くださる方の言われるがままに動かしていました。

私は温暖な九州の出身。そのうえ当日はこの冬一番の寒さで、「これ、何の修行だろう?」という感じでしたが(笑)、翌日実践の予定があり、「基本的な動作は身につけては!」となるべく多く操縦しようと臨みました。

#### —無事に修了証を手に入れましたか？

修了証がないと翌日の作業もできないので、まずホッとしました! 全員合格でしたので嬉しかったです。

#### —修了証を活用して、今後どんな活動をご予定ですか？

笑顔Pの復旧支援活動に参加しながら、現場で重機を上手に扱えるようになりたいです。今後、他の地域で災害があった時の備



修了証を取得した翌日、早速現場で整地作業に参加したあやこさん。

えにもなりますし。

例外はありますが、女性は力仕事では男性にかないません。けれども重機を扱えたら女性でも力仕事で役に立てます。

重機、扱ってみると楽しいですよ♪

修了証取得の翌日、早速笑顔Pが取り組む排土後の土の運搬に参加されたあやこさん。台風19号の被災地へも足を運び、「想像以上の被害状況に言葉を失いました。復興にはまだまだ時間もお金も必要だと感じました」と話します。「今後も自然災害は起こると思うので、有事に備えることと、地域の垣根を越えた助け合いが大事。そこに楽しく取り組んでいる笑顔Pの姿勢に共感します。楽しんでこそ、継続もできるから」。

#### <支援金のおねがい>

日本笑顔プロジェクトは民間任意団体で、公的資金援助を受けておらず、みなさまからの支援金のみで運営しております。仮設トイレの設置やその後の汲みとり料などにもご支援をいただけますよう、なにとぞよろしくごお願い申し上げます。

随時SNS上で活動報告をさせていただきます。

日本笑顔プロジェクト 代表 林映寿

八十二銀行(ハチジュウニギンコウ)

小布施(オブセ)支店(252)

口座番号 普通:211038

口座名 日本笑顔プロジェクト  
(ニホンエガオプロジェクト)

※口座番号に7桁の指定がある場合は、先頭部分に「0」を入力して、「0211038」としてください。

#### <支援金付きオリジナルグッズ販売のおしらせ>

日本笑顔プロジェクトでは、災害時の避難生活や支援活動に役立つ知恵や技術を楽しく身につけることができる日本初のライフアミューズメントパーク「nuovo(ノボ)」を構想、設立準備中です。これに伴い、オリジナルグッズの販売を行なっております。グッズ代金の一部はnuovo設立基金として大切に活用させていただきます。みなさまのご協力を、よろしくごお願い申し上げます。

詳しくは…

<https://egaonowa.net/goods/>